

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の大会施設工事における安全衛生対策の基本方針

(案)

[2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会 大会施設工事安全衛生対策協議会]

資料2-2

アスリートが最高のパフォーマンスを発揮できるよう、世界の人々に感動を与える場となる大会施設を着実に整備するため、工事を安全最優先で施工することが不可欠。大会施設の建設工事のリスクに対し、安全衛生対策を徹底する必要。

基本的な考え方

- 国内外から注目される大会施設の建設工事を、大会の一つのレガシー（引き継がれていく有益な遺産）として、今後の快適で安全な建設工事のモデルへ。
- 大会施設の建設工事に携わる者一人一人が世界最大の平和の祭典に参加しているという認識を持ち、安全衛生対策は、元請、下請（一人親方も含む。）の別なく、労使協調の下、統一的に実施。



大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所JV作成／JSC提供

①発注者等による安全衛生の取組

安全衛生対策は発注・設計段階から開始。労働災害や公衆災害などの重大なリスクに対してより適切な対処を可能とする。

②リスクアセスメントの実施促進等

リスクアセスメントを徹底し、工法自体の選択も含めて抜本的なリスク低減策を講じ、工事従事者にはきめ細やかな安全衛生教育

③墜落・転落災害等の防止徹底

建設工事で多く発生している墜落・転落災害や公衆災害の防止への重点的な取組み

④より魅力ある建設現場の構築

女性や若者が安全に安心して、やりがいを持って働ける現場を構築。

対策の実施状況を協議会でフォローアップ

大会エンゲージメントへの貢献

安全衛生対策の分かりやすい情報発信や技術者間交流などを通じて、たくさんの人達と一緒に大会を創り上げていこうとする大会エンゲージメントにも貢献

世界に誇る日本の建設工事の高い安全性と信頼を次の世代へ継承

安全衛生対策の基本方針（具体的な内容）

① 発注者等による安全衛生の取組

- 発注者による安全衛生経費の適切な積算、施工者間の請負契約における安全衛生経費の明確化
- 設計段階における施工時の作業性・安全性への配慮
- 発注者・設計者から施工者への的確な情報提供・指示、隣接工事の発注者による連絡調整の場の設置等
- ②から④の対応状況の確認

② リスクアセスメントの実施促進等

- リスクアセスメントによる、より安全な工法の選択、リスク低減策の評価と改善
- 元方事業者による現場の統括安全衛生管理
- 工事従事者の経験や能力、立場等に応じてきめ細かい教育
- 危険個所や視覚的に捉えられない危険の「見える化（可視化）」

③ 墜落・転落災害等の防止徹底

- 高所作業を少なくするような観点からも工法を検討
- 足場を設置する際のより安全性の高い措置
- 墜落時に身体への衝撃が少ないハーネス型安全帯を積極的に採用
- 埋設物・架空線の破損事故、資機材の落下、工事車両による交通事故等の公衆災害の防止

④ より魅力ある建設現場の構築

- 先進的な安全技術や安全管理手法を積極的に採用
- 熱中症予防、メンタルヘルス対策等の工事従事者の健康管理
- 女性専用のトイレ・更衣室の設置、受動喫煙防止対策の徹底や長時間労働の縮減など、これからの時代に相応しい現場づくり
- 安全衛生活動に功績のあった者や優良工事への表彰